

X11a **すばる主焦点多天体分光器 FMOS - 共同利用開始前夜**

田村直之、高遠徳尚、木村仁彦、Philip Tait (国立天文台ハワイ)、秋山正幸 (東北大学)、岩室史英、太田耕司、戸谷友則、舞原俊憲、矢部清人、森谷友由希、住吉昌直、河手香織、鈴木 裕司 (京都大学)、Gavin Dalton (Oxford) 他 UK FMOS チーム, Scott Smedley (AAO) 他 AAO FMOS チーム

FMOS はファーストライトを達成して以来 1 年半にわたって様々な調整や初期不良の克服が行われたのち、現在では 2010 年 5 月より始まる共同利用観測開始に向け、観測を円滑に遂行するためのコマンドスクリプトの整備や、最適な観測シーケンスおよびデータ整約手法の確立を目指し試験観測、作業が重ねられている。その中でも特に実際の観測データに基づく観測装置の feasibility や overhead のより正確な評価は急務であり、最近の試験観測では、様々な連続光強度、輝線強度の天体を長時間にわたって (1-4 時間) 積分してデータ解析を行い観測シーケンスやデータ整約手法へフィードバックする作業を繰り返し行っている。本発表では、共同利用観測開始を控えた装置の現状について報告するとともに、これまでの試験観測で得られたデータの紹介とそれを元にした装置の性能評価結果について概要の報告を行う。また、初期の機能を限定したリスクシェア観測からフルスペックでの本格的な安定運用への移行に向けた今後の予定についても簡単に報告する。